植調 Vol.46,No. 10 (2013)

畑雑草の幼植物
(1)ホトケノザとヒメオドリコソウ

(独)農業・食品産業技術総合研究機構　中央農業総合研究センター　浅井元朗

ホトケノザ(*Lamium amplexicaule* L.)，ヒメオドリコソウ(*Lamium purpureum* L.)はいずれもシソ科オドリコソウ属の一年生草本である。冷涼な気候を好み，主に秋季に発芽，出芽して，越冬後，春季に開花・結実する。温暖な地域では，ホトケノザは春季に出芽後，夏季までに，あるいは晩夏季に出芽して初冬までの短期間に開花・結実に至ることもあるが，ヒメオドリコソウではそのような挙動は少ないようである。ホトケノザは日本在来種であるのに対し，ヒメオドリコソウはヨーロッパの原産で，明治期に移入したことが記されている。

両種ともシソ科に特徴的な４稜形の茎に対生に葉をつける。ヒメオドリコソウは生育初期と，開花期の茎葉の形が異なる。一般の図鑑では開花期の写真のみが掲載されていることが多いため，これまで幼植物～生育期に同定されることは少なかった。

子葉はいずれも先端がわずかに凹み，その中央に小さな突起がある。基部には両側とも耳たぶ状の突起がある(写真－１：ホトケノザ，写真－２：ヒメオドリコソウ)。この点で，同時期に出芽する他草種と識別できる。ヒメオドリコソウの子葉がホトケノザに比べて幅広く，表面にわずかに毛がある。

両種ともその後，子葉柄が伸びる。第１対生葉は，ホトケノザは三角状で葉脈が赤紫色をおびることが多いのに対し，ヒメオドリコソウは卵形で，表面、葉柄に毛が多い(写真－３：ホトケノザ，写真－４：ヒメオドリコソウ)。両種とも葉縁には数対の浅い鋸歯があり，葉脈は凹む。ヒメオドリコソウの鋸歯は浅く，葉脈がきめ細かく網目状に見える(写真－５：ホトケノザ，写真－６：ヒメオドリコソウ)。写真－７は左がホトケノザ，右がヒメオドリコソウの幼植物。両種とも冬季に株元からさかんに分枝し，茎の上方は斜上する(写真－８:ホトケノザ，写真－９：ヒメオドリコソウ)。

ホトケノザの茎上部の葉は無柄で半円形または扇形(写真－10)，ヒメオドリコソウでは茎上部の葉は次第に短柄で三角状となる(写真－11，12)。

ヒメオドリコソウの方が群生する傾向があり(写真－13)，開花期の茎上部の葉は赤紫色をおびる(写真－14)。花は両種とも唇形花。ホトケノザの花冠が鮮やかでサイズも大きく目立つ(写真－15)。

写真－13には生育期のヒメオドリコソウ群落の中にホトケノザが一部，混在している。見つけていただきたい。

写真－1　ホトケノザ子葉

写真－2　ヒメオドリコソウ子葉

写真－3　ホトケノザ第1対生葉

写真－4　ヒメオドリコソウ第1対生葉

写真－5　ホトケノザ2葉期

写真－6　ヒメオドリコソウ2葉期

写真－7　左:ホトケノザ，右:ヒメオドリコソウ

写真－8　ホトケノザ生育初期

写真－ 9　ヒメオドリコソウ生育初期

写真－ 10　ホトケノザ開花期の個体

写真－ 11　ヒメオドリコソウ生育中期の個体

写真－ 12　ヒメオドリコソウ生育後期の茎葉

写真－ 13　群生するヒメオドリコソウ

写真－ 14　群生し，開花するヒメオドリコソウ

写真－ 15　ホトケノザ開花花序